

私たちは、大都市札幌に僅かに残された自然である住宅地を流れる河川とその水源の手稲山で、生き物と触れ合うことから遠ざかっている大人や子どもが、身近な自然を体験し生きものに触れ、森を知ること

で感じ、癒され、自然と人とのかかわりの環を広げていくことをめざしています。子ども達が成長の過程で自然に触れることはとても大切で、人間以外の生きものたちに心配ること、いのちの不思議や力強さとはかなさ、生きもの同士のつながりとその微妙さ、これらを支えている長い地球の歴史の中でつくられた生態系システムへの畏敬の念をもつこと、これらを肌身で感じ、他者と分かち合うこと、挙げればきりがありません。

8年目の活動となる2011年は、コープさっぽろさんに共催していただき、初のコウモリ探しや数万年の地形変化を体感する活動など、3回の新しい活動をグレードアップしたかたちで実現することができました。ご支援いただいたコープさっぽろさんに深く感謝するとともに、ここに簡単な報告書としてまとめさせていただきました。



さとkawaあそび 川の生きもの探し&ハルニレたね採りたね播き(6月4日)

手稲山から流れる川での生きもの探しとモニタリング調査。中の川、三樽別川では川の形状や川底の状態が異なるため、生息する生き物の違いを子ども達と感じ体感する事を目的とし、同時に毎年行っているモニタリング調査を行う。今回はいつものフィールド手稲山のカッコウの森に、今年豊作のハルニレの大木があってタネも見られたことから最初に種取りと種まきを行った。実際に木を見て触れ、採取して種のなる様子や特徴などの説明を受けたあと、タネ播きを開始した。



タネはまだ若くあまり良い状態ではなかったが、森づくりの一環として最初の作業とも言えるタネ採りとタネ播きをやってみた。芽が出たら苗を育てて、やがて森に還す活動につなげたい。ハルニレの木を知らない人も多く、もちろんタネも初めて知ったが、自分の手で採って植えた感覚を感じて欲しいと願う。今回は身近でハルニレの大木を見る事ができたので、木が育っていくイメージが少しできたかも知れない。



ここからは三樽別川へ移動して生きもの探し。この川は新川水系中の川支流の河川で、JR稲積公園駅付近で中の川へ合流している。あとで行くこの中の川は、途中軽川と合流して新川へ注ぐ川だ。カッコウの森から入ると、溪流の心地よい水音と匂いに包まれるとても魅力的な川だ。ここではカゲロウ、トビケラの仲間、ヤンマの仲間をはじめとする水生昆虫、カワニナが多く、ハナカジカも見られた。流れの速い所や石がゴロゴロしていて足場の悪い所もあったが、次第に慣れて小さい子どももずんずん入って行く様子が頼もしく思える。しばらく生きもの探しを楽しんだあと、次のモニタリング箇所の中の川へ移動した。



イバラトミヨ、モクズカニ、シマウキゴリ、ヌマチチブ、スナヤツメ、ヤマメ等の川魚が網で面白いように捕れる。草の下や流れの遅い所などのポイントを押さえた子ども達が競い合って水中を覗く。上流の方へ行くと深さは大人の腰の高さまである為、見守りにも十分な注意が必要だ。

40分程採取と楽しんだ後、川から出て実際に捕まえた生き物の説明を聞く。水槽には川魚やヌマエビ、ヨコエビの姿もあり、観察はここでも楽しめる。小さな網で何度もすくい、容器に移して廻し見ると、生きものの特徴や違いが良く理解できる為毎回行っている。

川に生息する生きもの(魚や水生昆虫)と森をつくるハルニレの木の存在。この一見全く違う植物と生きものが実は密接に繋がっているという事を子ども達にも少しわかってもらえたと思う。生きものがある川を大切に感じる事と、森づくりの一端を担う種取りや種まきの事を知って貰える良い機会だったと感じている。

さとmoriあそび 川の生きもの探し&コウモリナイトin/パラダイスヒュッテ(7月30~31日)

ゲスト講師 北海道大学農学研究院 赤坂卓美氏



今回は北海道大学大学院農学研究所森林管理保全学講座、農学博士の赤坂卓美さんをお迎えし「コウモリ観察」を行う。また午前には川での生きもの探しと「川流れ」を午後から行い、その後手稲山にある山小屋パラダイスヒュッテへ移動し、宿泊。翌日解散の2日間。まずは朝から星置川で生きものを探した。



最初に子供達が見つけたのは、水際の草が生えているところで、ウキゴリやスジエビたち。そして、少し流れがないところでは、フクドジョウがよろよろ出てくる。モクズガニもエッサ！エッサ！と横歩きしている。アクアスコープで川の中をもっとのぞいてみるとヤマメがヒョロヒョロと流れに向かって泳いでいる。見えるのに網では捕まえることができない。もどかしくもあり、捕まえない！という気持ちが余計に子供達を刺激する。川をのぞきながら「そこっ！」とか「いたっ！」と四方八方から聞こえる、サッと逃げてしまうのだ。そのあと、川流れを楽しんだ。初めは不安にかられるが、その一回を乗り越えた子供達は何度も何度も流れて、すぐに流れ方が上手になる。

あたりが暗くなる頃、パラダイスヒュッテで、コウモリの標本、骨、模型などを見たり触ったりしながら更に生態について赤坂先生の説明を受けた。羽の様な部分が皮膚と知ることが出来、顔も愛嬌があると知る。みんな、初めて間近でみるコウモリに興奮し、その行動や生態は未だに解明されていないことに驚いた。札幌にもいろんなサカナ達やコウモリ達は隠れて生活している。

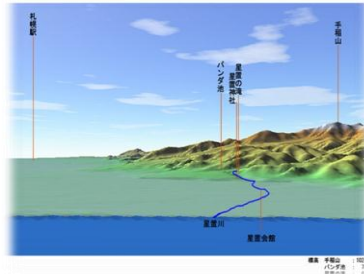
ドキドキしながら夜のカッコウの森へ行き、バットディテクターを持ち歩き出す。すると突然バットディテクターがププッと鳴り響く！耳を澄ますが、少しの間真っ暗な森に沈黙が続き、ププッと再び鳴り響く！コウモリが餌の蛾や昆虫を探している時に発する超音波。夜8時くらいが一番活発に活動し、音が聞きやすい時間だ。コウモリの音を聞いた興奮も冷めないまま、歩くと林道にかすみ網が張っており、そこでコテングコウモリを捕まえることができた。虫かごの中で小さくなっているコテングコウモリに大いに感動し、手稲山の夜は更けていった。

さとmoriあそび 星置川の数万年 地形の変遷と さわめく川の生きもの(8月28日)

ゲスト講師 つくば地形教室 池田 宏氏



手稲山ができてから長い月日の間、山肌は雨風に削られ土砂は川から海へと運ばれ5千年くらい前の海面上昇でその土砂が海に削られ、その後地球の温度が下がり海面が後退して現在の地形になったと言われる。その長い時の流れを、元筑波大学教授で地形学者の池田宏さんをお迎えし、現地歩きと模型実験で星置川と周辺の地形の変遷を見ていくプログラムだ。



手稲西小学校から星置の滝へ降りて、滝と岩を観察。その後扇状地の緩斜面を下りていった。国道5号線とJR星置駅の線路との間が20mの崖になっている。星置神社へ登って、海の方を見下ろしてみる。5号線の向こう側が平地になっている様子がよくわかった。実はこの5号線より先は6千年前には海になっていたと聞く。今通って来た崖が波によって出来た「海岸段丘」だと聞き、参加者からも驚きの声が出た。6千年前の人はここから海を見下ろしていたことになる。ちょうど今の銭函のように…。

今歩いてきた道のりを、実験で更にわかりやすく説明を受ける。池田先生のテンポのあるお話は興味深く、大人も子どもも真剣な眼差し。小さい石より大きい石の方が実は早く流れることや、大石と小石(実験では砂利と砂)が混ざっていると削られやすいことなど、不思議なことが次々目の前で見せてもらった。最後にいよいよ今日歩いた星置川の数万年の再現だ。運ばれた土砂が扇状地を作っていく。そうして一万年程前の星置川扇状地と河口が目の前に現れた。さて、縄文海進で海面が上がり、今の星置の海岸段丘が(神の見えざるスコップによって)眼前に現れたのであった。

手稲さと川探検隊 会員募集中！

手稲さと川探検隊

連絡先：代表 鈴木 玲 Tel 080-1891-7847 Fax 011-684-4487

〒006-0807 札幌市手稲区新発寒7条6丁目8-19

E-mail t-satogawa@mail.goo.ne.jp

ホームページ

<http://www.sapporo-web.com/satogawa/>

市民活動サポートセンター登録No.41939